

事例 12 木育チーム「もりのめ」による普及啓発活動

(北海道森林管理局 網走南部森林管理署)



- ・北海道斜里郡小清水町
- ・(左)小清水小学校出張授業での森林教室(令和7(2025)年9月)
- (右)小清水町放課後児童クラブでの葉っぱの^{しおり}づくり(令和7(2025)年6月)

林野庁では、木材・木製品との触れ合いや森林・林業体験を通じて、木材への親しみや木の文化への理解を深め、木材の良さや利用の意義を学ぶ「木育」を推進しています。

網走南部森林管理署では、令和5(2023)年に、若手や子育て世代の職員が、人々の森林への興味・関心の“芽”と森林管理を考える“多様な視点”を育み広げる木育チーム「もりのめ」を結成し、地域における木育活動を実施しています。

令和7(2025)年度は、小清水町の放課後児童クラブでの木の葉がもつ役割を描いた絵本の読み聞かせや葉っぱの^{しおり}づくり、小清水小学校での出張授業(森林散策、森林の働きについての学習、林業現場見学)、認定こども園でのドングリについて学ぶ森林教室など年間10回の活動を実施しました。こうした木育チームの活動により、前年度に比べて木育の依頼件数が増加するなど、地域における木育の認知度が高くなる効果が生まれています。

同署では、国民の森林・林業に対する理解醸成に向けて、木育のマニュアルを作成するなど、継続して木育活動を実施できる体制づくりに取り組んでいます。